



エコパークかごしま連絡協議会について

1月27日（火）に関係自治会や薩摩川内市等で構成するエコパークかごしま連絡協議会を開催しました。委員22名に出席いただき、廃棄物の搬入状況や廃棄物の埋立作業の状況、また、鹿児島県や薩摩川内市の担当部署から地域振興策の進捗状況について報告を行いました。



廃棄物の受入状況について

〈令和8年1月末現在〉

廃棄物の種類	搬入量(トン)	割合(%)
燃え殻（一般廃棄物を含む）	184,775	44.55
がれき類（廃石膏ボードを含む）	74,119	17.87
汚泥	43,006	10.37
ばいじん（一般廃棄物を含む）	40,353	9.73
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	36,913	8.90
木くず	17,644	4.25
廃プラスチック類	9,091	2.19
13号廃棄物	5,249	1.27
鉱さい	1,781	0.43
動植物性残さ	910	0.22
金属くず	371	0.09
紙くず	310	0.07
繊維くず	190	0.05
合計	414,712	100.00

※割合(%)は、小数点第3位以下四捨五入のため、合計と一致しません。

平成27年1月に開業したエコパークかごしまは、令和7年9月に廃棄物の搬入量累計が40万トンを超えました。

これもひとえに、皆様の御理解・御協力があったることと心から感謝申し上げます。

受け入れた廃棄物の種類は、多い順に、燃え殻（一般廃棄物を含む）、がれき類（廃石膏ボードを含む）、汚泥となっており、この3種類で全体の約4分の3を占めております。

令和7年度の搬入量は、1月末現在で3万7,111トンです。

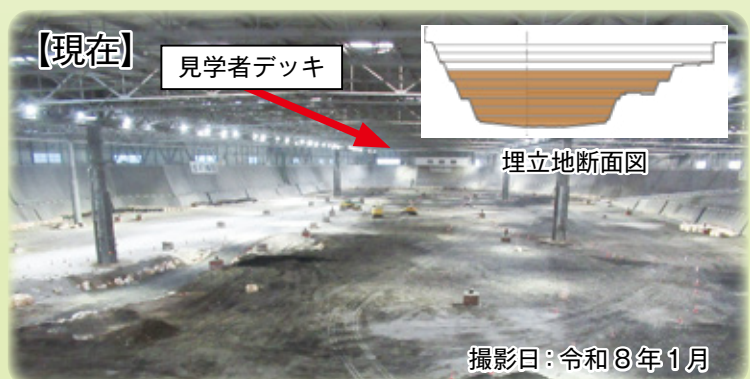
引き続き、安心・安全な施設の管理・運営のもと、搬入量の確保に努めてまいります。

廃棄物の埋立状況について

平成27年1月の開業から令和8年1月で11年が経過しました。

埋立地全8層のうち、現在、第6層目を見学者デッキ下の区画から順次、埋立中です。

引き続き、安心・安全を第一とした施設運営、廃棄物の適正処理に努めてまいります。



撮影日：令和8年1月

施設見学受け入れについて

開業以来、令和8年1月末までに、県内外から約7千3百人の見学者を受け入れました。

令和7年10月には、九州環境技術創造道場や一般社団法人鹿児島県産業資源循環協会女性部会の皆さんが視察に訪れ、施設の安全性や廃棄物の処理の状況を御見学いただきました。



九州環境技術創造道場
(覆蓋施設内を見学している様子)



(一社)鹿児島県産業資源循環協会女性部会
(施設模型を活用した説明を聞いている様子)

また、施設見学については、家庭から出る一般廃棄物と工場などから出る産業廃棄物の違いや最終処分場の役割・必要性などの理解を深めるため、小学生を対象に『環境学習』も行っています。

令和7年9月には、市比野小学校4年生が、埋立作業の見学や水処理の模擬実験を体験するなど楽しく学んでいただきました。

施設見学を御希望の場合は、電話で日程等を御確認の上、お申し込みください。
(TEL 0996-21-1220)



市比野小学校4年生
(見学者デッキから埋立作業を見学している様子)



市比野小学校4年生
(廃棄物について勉強している様子)

環境調査結果について

環境保全協定や関係法令等に基づき、周辺の水質（地下水及び河川水）の測定を実施しています。また、毎日の設備点検においても地下水や浸出水等に異常がないか確認をしています。これらの調査結果については、これまで同様、異常は認められていません。

詳しい調査結果については、エコパークかごしまのホームページに掲載しています。



観測井 (No.2) の採水の様子



浸出水 (原水) の採水の様子

教えて!エコパーク先生!



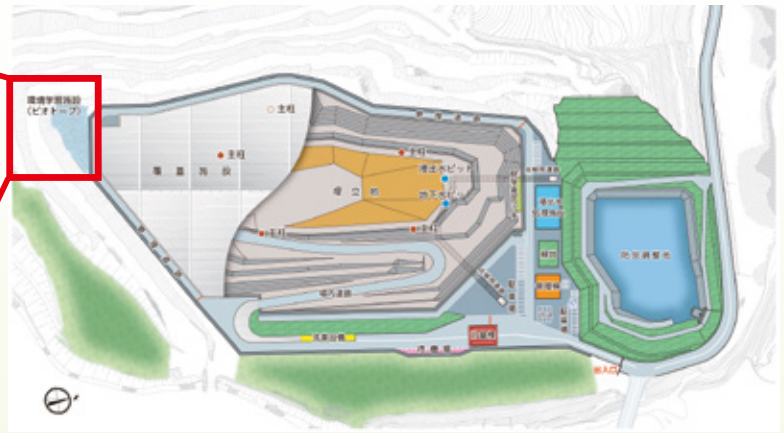
エコパークかごしまの周辺の環境はどうなっているのかな。



エコパークかごしまの奥に『ビオトープ』と呼ばれる野生生物が生息している場所があるので、一緒に見に行きましょう。



ビオトープ



エコパークかごしま施設配置図

ビオトープに生息している生き物たち

鮮やかな赤い腹部が特徴的な日本在来の両生類です。普段は、水中で過ごしています。

アカハライモリ▼▶

おなかの赤色が特徴だよ



◀ミナミメダカ

流れが穏やかな水中に生息しており、全長は2～3cm程です。動植物性プランクトンを食べます。



眼の深い水色が素敵だよ

シオカラトンボ▶

水辺の近くに生息しており、全身が青みがかった白い粉で覆われています。童謡「とんぼのめがね」の一番の歌詞にある『水色めがね』を連想させるような眼の色ですね。



エコパークって廃棄物を埋め立てしている場所だけど、いろんな生物がいるんだね。



今日見つけた生き物たちのほかにもいろいろな生き物があります。エコパークかごしまは、環境にも配慮した施設となっていて、周辺の環境と共存した運営に努めています。

排出事業者様にお話を伺いました！

有限会社 種子島クリーン産業（西之表市） 吉元工場長 にお話を伺いました。

当社は2000年6月の創業以来、種子島島内の産業廃棄物を中心に運搬、中間処理を行ってまいりました。また、地元自治体の協力のもと島内の古紙類（段ボール・古雑誌等）の再資源化にも力を入れております。種子島の産業の発展に伴い、県内外の様々な業種の事業者様から御依頼をいただくことも年々多くなってまいりました。

今後も法令に基づき、廃棄物の適正処理及び可能な限りの再資源化に取り組み、より良いサービスを提供しつつ、美しい種子島の自然を守るため、地域に密着し地域社会貢献できる会社であるよう精進してまいります。



創業当時、鹿児島県には管理型処分場がなく、島内で最終処分できない廃棄物は他県へ排出していましたが、エコパークかごしまが完成し、主に燃え殻の処分を委託しております。島内で排出される廃棄物は中間処理の工程を行ってもまだまだ再資源化できない廃棄物も多くあるのが現状です。

このような状況において、産業廃棄物を適正処理する上で、エコパークかごしまは、安心して処分を委託できる「なくてはならない処分場」であると感じております。



エコパーク周辺の地域振興策について

旧国道3号から大原野方面への大型車両迂回路整備工事については、信号機移設工事と市道との取付部分工事が完了し、令和8年2月に市道百次・山之口線として供用を開始しました。また、迂回路の全面開通に伴い、株式会社ヒラヤマ様の御厚意により旧国道3号沿いの川内営業所敷地内に大型車両迂回路誘導看板を設置しました。



迂回路と旧国道3号の交差点



迂回路と市道の取付部分



大型車両迂回路誘導看板

☆編集後記☆

エコパークかごしまは、今年で開業から12年目を迎えました。これまで安心・安全な運営を継続できたのもひとえに皆様の御理解・御支援によるものです。

引き続き、地域環境に配慮しながら、廃棄物の適正処理を行い、安心・安全を第一とした施設運営に努めてまいります。

これからも、皆様に分かりやすい情報をお届けできるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

問い合わせ先

○公益財団法人鹿児島県環境整備公社
〒895-0033 薩摩川内市川永野町 6924 番地 11
TEL 0996-21-1220
FAX 0996-21-1360

※この「エコパークかごしま通信」は、当公社ホームページ (<http://www.ep-kagoshima.or.jp/>) でも閲覧いただけます。